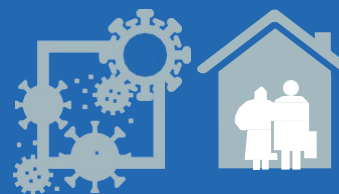


# COVID-19の流行期間および収束後に 弱者層に対する必要不可欠なサービスの 継続を支援するためのコミュニティ 医療システムの強化



## ファクトシート

日本補正予算：2021年3月～2022年3月

予算：183万2,736米ドル

主なパートナー：保健省、ガーナ保健サービス、野口記念医学研究所、ガーナ・エイズ委員会、日本大使館、国際協力機構（JICA）、日本の民間セクター、市民社会組織（CSO）

### 目的

このプロジェクトでは、必要不可欠な医療サービスの継続と、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的大流行のような医療に関する緊急事態に効果的な対応を行うために、国およびコミュニティのシステムを強化することで、ガーナのCOVID-19対応計画の実施を支援します。

### プロジェクトの成果

**成果1**：都市部で選定された5つのCHPS（コミュニティベース保健計画・サービス）医療機関においてCOVID-19の流行期間および収束後に医療サービスが確実に継続できるように能力を強化すること

**成果2**：COVID-19の流行期間および収束後に、コミュニティや弱者層が必要な医療サービスにアクセスできる能力を強化すること

**成果3**：公衆衛生上の危機に対処する国および地方の能力を強化すること

### SDGsへの貢献

このプロジェクトは、SDGsの目標3および17に貢献します。



From  
the People of Japan

### 開発課題

ガーナでは、日常的なサービスの提供を含む生活のあらゆる側面がCOVID-19の影響を受けました。医療サービスの崩壊はすべての人々に影響を与えますが、女性と子どもを含む最も脆弱な人々がとりわけ大きな影響を受けます。

COVID-19はエイズなど社会的差別に苦しむ人々にさらなる苦しみを与え、脆弱性を増幅させる要因ともなりました。

COVID-19は都市のスラム街で暮らす人々に多大な影響を及ぼしています。多くの人々は既往症を持っており、狭い地域に密接して住み、医療にアクセスすることができないからです。

COVID-19の世界的大流行はまた、早期発見と治療への速やかな連携を確実に行うためにエントリー・ポイントの能力を強化することが早急に必要であることを明らかにしました。